



伝えたい
残したい
わがまちの
誇り



ふるさと 情景

VOLUME

15

長野地区
(西代神社の西代神楽)



毎

年10月に行われる西代神社の秋季例祭では宵宮で神楽の奉納、本宮では神輿渡御(※)が行われます。西代神楽の起源は享保17(1732)年、西代藩主が伊勢神戸藩へ転封となった際に奉納されたと伝えられ、現在は昭和55年に設立された西代神楽保存会の約20人で保存・継承されています。

西

代神楽には、複雑な足運びをともしなう「神来舞」から、道化役と獅子のやり取りが観客の笑いを誘う「花の舞」まで、多様な演目が10種類存在します。演者の希望や習熟度によって奉納する演目が割り振られ、本番に向けて数か月前から練習に取り組みます。

先輩から後輩へと口伝えされる西代神楽。祭りを支える人たちの繋がりによって、伝統が受け継がれています。



(※)渡御＝神社から目的地に向けて神輿が巡行すること

ふるさと のひと

坂東弘紀さん

高校生のころ、和太鼓クラブの参考にしようと練習に参加し、最初は「見て覚えるもの」と言われ戸惑いましたが、以来17年間、踊り続けてきました。これまで長い年月をかけて多くの担い手が少しずつ改良を重ねながら、地域で守り伝え続けています。今、小学校の教員をしているので、郷土芸能に触れる機会が少ない子どもたちにも伝え、これからも地域で引き継いでいきたいと思っています。



1 「花の舞」の一場面、軽妙なやり取りが笑いを誘う
2 演目の幕間には獅子舞が観客の子どもたちの頭をかむ一幕も
3 本宮で神輿が神社を出発する様子

※西代神社へは河内長野駅より徒歩15分。